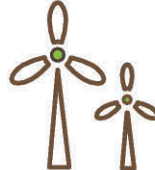


みやぎ生協・コープふくしま

サステナビリティ レポート 2025



～ 持続可能な社会のための活動報告書 ～



みやぎ生協・コープふくしまのめざすもの

わたしたちは、協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します



「みやぎ生協・コープふくしま サステナビリティ・レポート」 発行にあたって

みやぎ生協・コープふくしまは、それぞれの創立以来、地域住民のコミュニティの中核として多数の市民を代表する組織となることをめざしてきました。2019年3月には組織合同し、これまで築いてきた伝統を守り育てるとともに、新しいことにも挑戦し、さらに大きな範囲でより良き地域社会を創るために活動しています。

生協が掲げる「協同」は、市場経済で強調される「競争」がもたらす諸問題を解決する考え方です。弱肉強食の世の中ではなく、人が互いの人間性を尊重し合い、助け合うことで、「誰一人取り残さない」世の中をめざすことにつながります。これは2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」の基本理念と一致します。

現在、私たちは地球の規模で生じている気候変動など環境問題や飢餓、貧困など人の生存を脅かす諸問題に直面しています。2024年12月に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞し、ともに核兵器廃絶の運動を進めてきた私たち生協関係者は平和への一筋の光を見出しましたが、世界のいくつかの地域では戦争状態が続いています。争いの継続は上述した諸問題を複雑化し、世界全体に悪影響を及ぼしています。また、2019年末からのコロナ禍の下で、社会的格差など現代社会の諸問題が浮き彫りになるとともに、人々の生活様式が変化しつつあります。それらも含め、人類が解決すべき諸課題に対し、SDGsは具体的な指標を定め、社会全体が取り組むことを求めています。とりわけ、今年は国連が定めた2度目の「国際協同組合年」であり、私たち生協は国際社会の一員として、より一層貢献することが求められています。

このサステナビリティ・レポートは、みやぎ生協・コープふくしまの事業・活動とSDGsの17目標の関係を、メンバー（組合員）、お取引先様、自治体、関係団体などの皆様にわかりやすく伝えるためにまとめたものです。

東日本大震災以来取り組んできた被災者支援はもちろん、この間積極的に取り組んできた再生可能エネルギーによる発電事業をはじめとした環境活動、開始から50年以上を経て、2030年までに新たな高みをめざす「顔とくらしの見える産直めぐみ野」、生活相談・貸付事業、コープフードバンクなど様々な事業・活動を掲載しています。また、コロナ禍でメンバー（組合員）の生活を支えるために奮闘した職員をはじめとする関係者の姿も見ることができますので、是非ご一読いただければ幸いです。

みやぎ生活協同組合
理事長

冬木 勝仁



Contents 目次

コープSDGs行動宣言	3
国際協同組合年／被爆・戦後80年 ～平和とよりよい生活のために～	4

1 みんなでつくる豊かな暮らし

いきいきとくらせる地域づくり	9
生産者と消費者をつなぐ「めぐみ野」	13
地産地消でつながる地域“ふくしま大豆の会”	16
東北の食と産業を伝える「古今東北」は10周年	17
食品の安全・安心	19

2 安心してくらせる地域づくり

地域のインフラとして	21
地域のセーフティネットとして	22
社会福祉の向上	23
「誰も取り残さない」買い物のかたち	25

3 公正で人にやさしい組織づくり

働きやすさとダイバーシティ	27
誇りと展望が持てる組織づくり	28

4 地球とエネルギーの未来のために

環境理念・方針	29
2030年目標「CO ₂ 排出量 80%削減」	29
循環型社会の構築～3R～	30
再生可能エネルギーの普及拡大	31
メンバー（組合員）と進める環境活動	33

5 平和な社会の実現をめざして

平和な国際社会に向けて	34
-------------	----

6 ガバナンスと概況

経営体制と意思決定	35
みやぎ生協とコープふくしまの組織合同、 コープ東北サンネット事業連合との関係	36
内部統制	37
組織概況	38

みやぎ生協・コープふくしまのステークホルダー（生協と関わりのある個人・団体）

メンバー（組合員）を含む消費者、職員、取引先・めぐみ野生産者、地域社会（自治体、団体、他生協）、地球環境（未来の人々）

掲載範囲

- 対象期間 2024年3月21日～2025年3月20日（特別記述がない場合）
- 対象範囲 みやぎ生協・コープふくしま、コープ東北サンネット事業連合とその子会社・関連団体
本紙でご紹介する取り組みの該当範囲を示すため、見出しの横に以下のようなアイコンを記載します。



……みやぎ生協



……コープふくしま



……コープ東北

コープSDGs行動宣言

私たちは、2018年に日本生協連で採択された「コープSDGs行動宣言」に賛同し、持続可能な社会づくりにこれまで以上に取り組みます。

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。



ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいをもち、働き続けられる生協づくりを進めます。



健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。



世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク、フードドライブなどの取り組みを進めます。



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標（2030年環境目標）を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。



持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地域資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。



私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。

私たちは、「生協の21世紀理念（1997年日本生協連総会決定）」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。私たちは、以上7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

2025年は国際協同組合年 被爆・戦後80年 です



国際協同組合年

2025 年は国連が定めた「国際協同組合年」です

SDGs の達成に向け、協同組合の役割が改めて重要視されています。

協同組合は地域社会の様々な課題解決に貢献できる存在であり、食品の安定供給、地域社会やコミュニティへの支援、地域経済の活性化など、多様な分野でその役割が期待されています。

私たちは、協同組合としての役割を発揮し、地域に愛され、メンバー（組合員）に寄り添う生協をめざします。



被爆・戦後80年 平和とよりよい生活のために

2025 年は「被爆・戦後80年」です

日本の生活協同組合は、戦争を経験した歴史を踏まえ「平和とよりよい生活のために」を掲げ、被爆者の皆さんとともに、「戦争も核兵器もない世界」をめざして活動してきました。

私たちは、改めて全国の生協や多くの市民活動団体等と連携し、被爆者の思いを継承し、憲法9条を守り核兵器廃絶をすすめる活動を更に広げ、強めていきます。



2025

国際協同組合年とは

国連は「一年間を通じて、平和と安全、開発、人権/人道の問題など、ひとつの特定のテーマを設定し、国際社会の関心を喚起し、取り組みを促すため」に「国際年」を制定しています。

協同組合は、持続可能な食料生産・消費、健康・福祉、社会的包摂、仕事起こしなどさまざまな分野で持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献しています。

そのため、協同組合のSDGsへの貢献についての認知の向上と協同組合の振興を促すために、国連が2025年を国際協同組合年に決めました。

2025年、みやぎ生協では、SDGsの達成に向けた協同組合の取り組みをさらにすすめ、協同組合に対する認知を高めていく絶好の機会ととらえ、協同・相互扶助の志をもとに地域課題の解決への取り組みをすすめています。





国際協同組合同盟 (ICA) による 協同組合の定義とアイデンティティ

協同組合の 定義

「人びとの自治的な組織であり、自発的に手を結んだ人びとが、共同で所有し民主的に管理する事業体をつうじて、共通の経済的、社会的、文化的ニーズと願いをかなえることを目的とする。」

協同組合の 特質

協同組合は「人びとの自治的な組織」とされ、政府や私企業から独立し、組合員が共同で所有し民主的に管理します。組合員は出資額に関わらず一人一票の議決権を持ち、協同組合は「資本」中心の株式会社とは異なる「人」が基本となる組織です。



協同組合の 目的

協同組合は、事業を通じて組合員の共通の経済的、社会的、文化的ニーズを満たすことを目指します。利益分配を目的とする株式会社や、社会全体への貢献を掲げるNPO法人とは異なり、組合員のニーズに応えることを最優先します。そのため、協同組合は市場での活動を効率的に行い、組合員への貢献を求められます。

協同組合の 原則

- ① 自発的で開かれた組合員制：参加は自発的で、希望する人は誰でも加入可能。
- ② 組合員による民主的管理：出資額に関わらず一人一票の議決権を持つ。
- ③ 組合員の経済的参加：資金は組合員が公平に出資し、剰余金は組合員への還元や地域貢献に使う。
- ④ 自治と自立：外部の干渉を受けず、自らの運営を決定する。
- ⑤ 教育、研修および広報：協同の必要性を理解し、組合員の教育が重要。
- ⑥ 協同組合間の協同：地域・国際的に協力し合い、ニーズに応える。
- ⑦ 地域社会への関与：地域の持続可能な発展に貢献し、環境保全や災害復旧活動が重要視されています。





みやぎ生協・コープふくしまでは、「平和とよりよい生活のために」というスローガンのもと、誰もが安心してらせる平和な社会をめざして活動しています。

2024年度 平和の取り組み

● 2024ピースアクション in オキナワ「沖縄戦跡・基地めぐり」派遣報告会

3月27日～29日に高校生2人と地域代表理事2人を含む5人を沖縄に派遣しました。仙台市内の商業施設アエルのオープンスペースで報告会を行い、オンラインを含め50人が参加しました。報告の後、派遣者自身が模造紙に報告をまとめ、その前に立って参加者と交流を深めました。また、ミニ学習会「知ってほしい！沖縄の島々のこと」では、琉球弧の軍事化に抗する市民の会・みやぎ事務局：外山真理さんにお話し頂きました。来場者からは「若い世代の継承の大切さを実感した」「沖縄の島々の現状を初めて知って驚いた」などの感想が寄せられました。



● 2024ピースアクションinヒロシマ派遣事前学習会 木村緋紗子さんの「被爆の証言を聞く」

7月13日にみやぎ生協文化会館ウィズで実施し、オンライン含めて100人が参加しました。宮城県原爆被害者の会代表 木村緋紗子さんによる大変貴重な被爆の実相や、今伝えたい想いをうかがいました。「世界で繰り広げられる戦争、紛争が絶えない時代である今こそ、もう一度原爆の被害、戦争の事実を知る必要があると思います」などの感想がありました。



● 2024 ピースアクション in ヒロシマ派遣報告会

8月4日～6日に小中学生の親子3組と高校生2人を含む12人を広島に派遣しました。アエルのオープンスペースで報告会を行い、オンラインを含めて85人が参加しました。

派遣者が実際に現地を訪れ、分科会などで被爆体験者の話を聞いて多くのことを学び、自分なりに考えたことを自分の言葉で発表しました。来場者からは「貴重な話を聴くことができた」「語り継ぐことの大切さを感じた」「現地に実際に行ってみる、聞くなどとても大切だと感じた」などの感想が寄せられ、平和の思いを多くの人と共有することができました。当日は平和委員会のメンバーによる「被爆体験証言集」の朗読も行いました。



● へいわの輪プロジェクト「しあわせ」や「へいわ」を感じる絵を描こう♪

へいわの輪プロジェクト第2弾として「しあわせ」や「へいわ」を考えるきっかけづくりとして実施しました。5月1日～7月31日の3か月間、絵とコメントを募集し、178枚の絵が集まりました。集まったすべての絵はヒロシマ派遣報告会の会場に展示し、報告会終了後表彰式を行いました。絵の貸し出しも行っています。



● 平和カフェ

榴岡店、南小泉店、大崎エリアで開催しました。「戦争のつくりかた」の動画視聴後、平和委員会による憲法ビンゴを実施。その後、好きな条文を選びシール投票しました。最後にグループごとにお茶を飲みながら「最近気になっているニュース」などについてそれぞれ出し合い、交流しました。



● 絵本キャラバン

「しあわせ」や「へいわ」に関する絵本とコメントを展示して多くの人と平和の思いを共有しています。2024年度、宮城県ではアエル、みやぎ生協文化会館ウィズ、明石台店で開催し、読み聞かせなども行いました。また他団体、九条の会、新婦人の会、退職教職員の会などに貸し出しを行っています。

福島県内では5月から12月にかけて19か所で展示を行いました。学童クラブやお寺にも貸し出して多くの方に手に取っていただきました。



● 平和七夕

核兵器のない世界の実現を祈る仙台市の市民グループ「『平和を祈る七夕』市民のつどい」に協力し、店舗など23会場で平和七夕を展示しました。各地域で平和への願いを共有することができました。また、ピースアクションinヒロシマ「虹のひろば」の会場にも展示し、折り鶴のレイをプレゼントしました。



2025年度 平和の取り組み

● 「おかあさんの被爆ピアノ」上映会&「被爆ピアノ」演奏会(7月)

原子爆弾が投下された広島や長崎で奇跡的に残ったピアノは「被爆ピアノ」と呼ばれ、日本各地や海外でその音を奏でることにより、平和の尊さを伝え続けています。被爆ピアノの音色を通して平和への願いや思いを伝え、核兵器の恐ろしさや平和の尊さを語り継ぐことが目的です。

● 子ども平和新聞(6月～9月)

次世代を担う子どもたちが、ジャーナリズムの視点を学びながら平和について深く考えるきっかけをつくることが目的です。河北新報社の方に新聞の作り方を学び、「仙台復興記念館」で取材後、新聞を作ります。作成した新聞は各店舗やホームページに掲載予定です。



みんなでつくる 豊かな暮らし



いきいきとらせる地域づくり

● メンバー(組合員)とつくる豊かな地域

生協では、メンバー(組合員)の意見を生協の運営に反映させるだけでなく、メンバー(組合員)自身が企画・参加し、交流することで地域のコミュニティ形成につなげています。

■ コープクラブ(みやぎ) コープ委員会(ふくしま)



地域のメンバー(組合員)が組織するコミュニティで、生協の取り組みや暮らしにかかわる様々なことを知り、学びながら、興味・関心のあることを自分たちで企画し、「楽しくてためになる」活動をしています。例年開催する「コープのつどい(みやぎ)」「ふれあいコープ(ふくしま)」などの交流活動も開催しています。

■ ワア〜イわい 学習&交流会



メンバー(組合員)同士が地域を超えて交流する場として、またメンバー(組合員)の関心あるテーマを決めて、講師を迎え、学ぶ場として開催しています。

■ こ〜ぶ文化鑑賞会



優れた文化・芸術を鑑賞できる機会をより多く作ることを目的に、1987年にスタートして今年で39年目を迎える会員制の会です。こ〜ぶ文化鑑賞会では色々なジャンルの舞台を鑑賞し楽しい時間を過ごしています。2025年度例会は「ジャズコンサート」「タンゴ」などを予定しています。



■ 新たな空間MoreCoop



「新たな空間MoreCoop」は、生協の各種サービスや活動の発信拠点として2022年にスタートしました。2024年度には大河原店・亘理店・柳生店・国見ヶ丘店で開始し、「MoreCoop」は11店舗となりました。店舗では「アテンダント」(案内係)を配置し、売場案内や商品・サービスの説明、お買物サポートなど「思いやり」「おもてなし」の気持ちをもって接客対応につなげています。また、宅配で注文した商品が店舗で受け取れる「宅配ステーション」の設置や、アテンダントや各部署、テナント様などが企画する様々なイベントが開催されています。



● スポーツで地域を元気に!

■ U12サッカーリーグ「めぐみ野杯」



小学生のサッカーリーグは、毎年特定チームが勝ちあがる、点差が開くなどリーグ参加のモチベーションが維持しづらくなっています。これらの問題を解消するため、(一社)宮城県サッカー協会は2022年にU12(小学生男女)の新たなリーグ戦を立ち上げました。みやぎ生協は「めぐみ野杯U12リーグ」として協力しています。年に一度開催され、多くのチームに優勝の機会を与える特徴のあるリーグです。

■ 小学校サッカー巡回授業支援 (宮城県サッカー協会)



サッカーを通して、子どもたちの絆や健やかな成長を促進させ、心身の成長に必要な「刺激」を与えること目的とし、併せて、小学校の教員にサッカーを通じた運動、関わり方について指導ノウハウを伝授します。

2021年度より支援を開始し、2024年度は宮城県内24校で開催し、3,148人が参加しました。

■ 地域スポーツチームへの支援



宮城県と福島県に本拠地を置くスポーツチームを資金面や選手雇用で支援しています。地域に元気をもたらしてくれるチームの活躍を願い、応援しています。

楽天野球団/ベガルタ仙台/仙台89ers/マイナビ仙台レディース/ヴォスクオーレ仙台/コバルトール女川/リガール仙台/福島ユナイテッドFC



● 子育て応援・エールアクション

子育て応援事業活動全体を「子育て応援・エールプログラム」とし、各部が取り組む「子育て応援・エールアクション」という事業・活動を通して子育て世代を全力で応援しています。



■ ココイククラブ



妊娠中～15歳未満の子どもを持つメンバー（組合員）を対象にした無料サービスです。専用サイトでは離乳食レシピやおすすめ絵本など、子育てに役立つ様々な情報を公開しています。

2024年度は、小学生がお店のお仕事を体験できる「こども店長」を開催しました。店内放送やお客様のお出迎え、商品の陳列や「もぐもぐコープ」を体験、そしてふだん入ることの出来ないバックヤードを見学し、POP作りなどを楽しみながら学びました。



ココイク会員 特典プレゼント



こども店長

■ 子育てひろば (みやぎ) ■ 親子ひろば (ふくしま)



0歳～未就園児とご家族を対象としたサロン活動です。歳の近いお子さんを持つ親同士で交流し、「子育てが楽しい」と思える時間になっています。また様々な親子企画をオンラインや児童館などでも実施しています。



■ 子どもたちの食育をすすめる活動



食育イベントを開催しています。中でも、児童向け「5 A DAY 食育体験ツアー」、園児向け「5 A DAY たべるのおはなし教室」は、参加型体験食育教室として宮城県内の小学校や幼稚園で授業として活用されています。

また福島では、行政と一緒にバランスよく食べることの大切さを体験する取り組みを行っています。



■すくすくばこ



宮城県・福島県の赤ちゃんの誕生をお祝いし、その記念として思い出をしまっておける「すくすくばこ」を無料でお届けしています。箱の中には趣旨に賛同した協賛企業様からの育児グッズなどが入っています。2024年度は宮城 4,523 人、福島 2,807 人の赤ちゃんへお届けしました。



■学校現場への支援



宮城県内の学校への講師紹介など様々な取り組みを通して、教育現場を幅広く支援しています。また、みやぎ生協の社会的活動の中で学校教育につながるものを掲載した『COOP 授業に役立つ学習ガイド』を、宮城県内のすべての小中学校へお届けしています。



■コープママのサポートクッキング



みやぎ生協の職員で野菜ソムリエとNPO日本食育インストラクターの資格を持つ「コープママ」。「楽しく・おいしく・健康に」をキーワードに自治体や子育て支援センター、児童館からの要請を受け、離乳食講座や親子で楽しめる食育講座を実施しています。

● 地域とともに子育てを応援

■こども食堂の支援



子どもたちの孤食を防ぎ、地域の居場所として無料または低価格で食事を提供する「こども食堂」。店舗集会室・調理室、食品などを提供しながら、地域の方々も含めた交流の場作りを応援しています。「みやぎこども食堂ネットワーク」へ協力し、入会団体へのギフトカード寄贈や食品の受け渡しなど、支援のハブ機能を担っています。

また、福島では、いずみ店で「コープいずみ子ども食堂」を、毎月1回パントリー形式などで行っていましたが、2025年度からは、隔月で会食形式で行っていきます。

■富谷市乳児見守りおもむつ等お届け便



0歳児のいるご家庭に定期的におむつ等をお届けすることを通じて、赤ちゃんと保護者を見守る宮城県富谷市の子育て支援事業を受託しています。2023年度からは、子育て家庭の見守りに関する研修を受けた生協の職員がお届けの際に育児の悩みなどを伺い、アドバイスや市の子育て支援サービスへつなげるなどの活動にも取り組んでいます。

開始からの累計

- ・見守り件数 3,060 件
- ・おむつ支給個数 6,343 個



生産者と消費者をつなぐ「めぐみ野」

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」の取り組みを通して、自然環境や生物多様性、人を大切にする農業や漁業の維持・発展・食料自給率の向上に寄与しています。



● 消費者・生産者の共通の願いを実現するために

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」

3つの基準

- ① だれ(生産者)がどこ(産地)で作ったかがわかること。
- ② どのように作ったか(栽培・飼育方法)がわかること。
- ③ 生産者とみやぎ生協のメンバー(組合員)の交流があること。

消費者・生産者がともに支え合う「産直 めぐみ野」

2024年夏、「令和の米騒動」と言われるほど米の在庫は枯渇し、ほんの少し前まで「米あまり」と言われていた状況は一変しました。

多くの量販店の米の売り場から米がなくなるなか、十分とは言えないまでも新米発売まで、みやぎ生協が米の供給をつなぐことができたのは、「めぐみ野」米の生産者、産地、流通にかかわるみなさんの協力があったからこそです。

「価格が上がった」と言われがちな生鮮食品ですが、これまで肥料価格や飼料価格などの資材高騰が生産者の経営を圧迫してきました。

生産者は「ただ価格が高くなること」を望んでいるわけではありません。

「消費者に利用してもらえる価格」そして「再生産できる価格」を望んでいるのです。

2000年、農業に従事する人は約240万人でした。2040年には8割以上も減少し、たった30万人になってしまうことが予測されています。

このままでは「作る人」がいなくなってしまう。

「消費者」と「生産者」を結び、メンバー(組合員)の食を支えること、生産者の生産継続を支えることが私たちの使命です。

「めぐみ野」は、地域みんなが参加する協同の運動です。

「めぐみ野」を通して第一次産業を支え、持続可能な地域社会に貢献します。



みやぎ生協 執行役員
コープ東北 執行役員
店舗商品本部 本部長

今野 一彦

●「めぐみ野」と環境保全

みんなわくわく 生き物いっぱい田んぼ



「めぐみ野」は、有機質肥料の活用など、土づくりに取り組んでいます。

豊かな土は生物多様性にも貢献し、「めぐみ野」米産地である宮城県の大崎地方は、2017年、「世界農業遺産」に登録されました。田んぼを訪れる子どもたちは「どうしてこんなに生き物がいるの?」と目をキラキラさせています。

飼料用米の活用

「めぐみ野」の豚肉・鶏肉・大沼牛・鶏卵・角田丸森産牛乳・銀さけの生産には、飼料用米を加えたエサを使っています。飼料用米の生産と消費が増えることで水田が維持され、それが食料を自給する力の向上と環境保全につながります。



持続可能な養殖業と生物多様性

「めぐみ野」志津川湾産養殖銀さけの産地、宮城県志津川は「養殖銀さけ」発祥の地です。

美しい海を守るため、水中で崩れにくく、海を汚さないペレット状（小さな固まり）のエサを与えています。また限りある資源を有効活用するために、エサの一部に宮城県産の飼料用米を使用しています。

志津川湾は、藻場の多様性や希少な水鳥の重要な越冬場所であることが評価され、2018年ラムサール条約（湿地保存に関する国際条約）にも登録されました。



● 生産者が作る「めぐみ野」旬菜市場



旬菜市場には「安全でおいしい野菜を食べたい」というメンバー（組合員）の願いと、「その願いに応えたい」という生産者の思いがつまっています。生産者が規格と価格を決めて出荷しており、種類が多くて鮮度も良く、生産者の自信作がそろっています。

めぐみ野農産品は生協版GAP^(※)「安心くん」に取り組んでいます。

(※)GAPとは食品の安全、環境保全、労働安全、人権保護等、持続可能な農業を守る生産工程管理の取り組みのことです。

● メンバー（組合員）と生産者の交流が育む「めぐみ野」

「めぐみ野」は同じ地域・日本にくらす者同士がお互いに交流しながら、「ともに地域をよく変えていこう、豊かな地域をつくっていこう」という事業活動・運動です。例年、季節ごとの産地見学や収穫体験のほか、店舗などでの学習会を数多く開催し、年間約8,000人がこの活動に参加しています。



「顔とくらしが見える」関係は、メンバー（組合員）にとっての安心感だけでなく、「買ってくれる人がいる」「作り続けられる」という生産者の希望にもなります。

生産者の皆さんが地域で農業や漁業、畜産業などを長く続けていくためにも、助け合う「協同」の力である「めぐみ野」の活動を大切にしていきます。

●メンバー(組合員)と生産者との交流から生まれた「牛乳タオル1本運動」



タオル一本運動贈呈式

1991年、メンバー(組合員)で構成された産直牛乳委員会が鳴子上原酪農組合を訪問したとき、牛乳をしぼる際に使うタオルの消耗が激しいことを耳にしました。

そこで、ささやかな支援として、家庭でねむっているタオルの提供を広くメンバー(組合員)に呼び掛ける「タオル1本運動」が始まりました。おいしい牛乳の生産に励んでもらうために続けているこの活動で、2024年度は5,500本、累計15万8千本以上のタオルを届けています。

生産者とのつながりを大切に「めぐみ野」を応援します

顔とくらしが見える産直「めぐみ野」は、生産者の「メンバー(組合員)」に安全で安心な商品を届けたいという思いで作られています。近年の猛暑・豪雨・水温上昇など様々な深刻な問題や、飼料・肥料価格などの資材高騰は、農業や漁業、畜産業に大きな影響をおよぼしております。このような中、生産者は「めぐみ野」商品を待っているメンバー(組合員)のために工夫と努力を重ねて生産に取り組まれています。

これから先も生産者に生産を継続していただくためにも、私たち消費者は生産者とのつながり・交流を大切に、「めぐみ野」商品を利用していくことが大切なことだと思います。

多くのみなさんに「めぐみ野」商品を伝え、知ってもらうことで、食卓に安全で安心できる商品が並ぶよう生産者を応援し続けていきます。



みやぎ生協
地域代表理事

菊地 由香里

地産地消でつながる地域“ふくしま大豆の会”



生産者・加工業者・消費者が連携し、福島県産大豆を使った安全安心な商品(納豆・豆腐・みそ、醤油など)を作り、利用する地産地消の推進に取り組んでいます。大豆の生産者や加工業者と連携して毎年「畑の学校」という活動の中で、消費者が種まきから収穫、みそ造りまで体験して生産者などと交流しています。





東北の食と産業を伝える「古今東北」は10周年



宮城県大槻ファーム産めぐみ野豚^{ボーケ}使用 ホルモン三種 (にんにくネギ塩ホルモン・ピリッと辛味噌ホルモン・ しょうまテッポウ塩ホルモン)

宮城県丸森町大槻ファームの「めぐみ野豚^{ボーケ}」の内臓を、塩電の会社(株式会社ビゼラル)で、味付けホルモンに加工してもらっています。この工場では3種類の味付けホルモンのほか、丸森町のふるさと納税返礼品「大槻ファームの豚肉セット」も製造いただいています。味に定評のある「めぐみ野豚^{ボーケ}」の加工品をお楽しみください。



株式会社ビゼラル 製造担当 高城大地さん
大槻ファームのみなさん



山形県鶴岡市産 庄内柿 雅(みやび)

山形県庄内地方の特産品「庄内柿」を摘果して大きく育て、さらに木になったままの状態でも固形アルコールを入れた袋をかぶせて、渋抜き(樹上脱渋)しました。古今東北専用ブランド「雅(みやび)」と名付けて提供しています。サイズが大きく、上品な甘さと柔らかくなりやすい特徴を持った「柿」です。柿本来の歯ごたえを長期間楽しむことができます。



写真中央
成澤農園・成澤満さん

福島県南相馬産天のつぶ使用 ふっくら白がゆ

福島県南相馬市で震災後7年目に収穫が始まった福島県オリジナル品種「天の粒」を紅梅夢ファームが育成、収穫し、それを南相馬市のエიმカイワで、美味しい「白がゆ」に加工した商品です。原料は「白米」だけで、他に添加物を加えていません。どちらの会社も震災後に地域復興のために作られた会社です。

株式会社エიმカイワのみなさん
株式会社紅梅夢ファームのみなさん



● 生協以外の販路拡大

みやぎ生協・コープふくしま以外にも販路を広げるために、コープ東北の子会社(株)東北協同事業開発のもとで開発される「古今東北」商品。全国の生協のほか、地域の小売店、楽天市場でのネット販売にも広がり、取り扱うアイテム数も増え続けています。



2015年11月にデビューした「古今東北」ブランドは、2024年11月に9周年を迎え、2025年11月には10周年を迎えます。「古今東北」は東北6県の食材や加工品を全国に発信し、販路を拡大することで復興と地域振興を後押しすることをめざします。東北の「地域ブランド」として東北に貢献していきます。



岩手県産 とっても便利な乾燥スライスしいたけ

日本でも有数の干しシイタケの産地である岩手県のしいたけをスライスして乾燥させました。水戻し不要でそのまま使える便利な乾燥しいたけです。岩手県宮古市のかけあしの会が開発しました。古今東北商品になり数量が増えたため、宮古市の授産施設で袋詰めをはじめて雇用が増えました。また、かけあしの会は、東日本大震災後に、いわて生協の宮古市のお店の店長だった菅原さんと理事さんが、生協を退職して震災復興のために立ち上げた会社です。「古今東北」とも多くのコラボ活動を行っています。

写真左 株式会社かけあしの会のみなさん
写真右 右が菅原社長、左が元生協理事の香木さん

青森県八戸港水揚げ やっこいいわし醤油煮・やっこいいわし味噌煮

好評の「やっこいさば缶」を製造している、青森県八戸市の（株）宝幸で、今度は「やっこいいわし缶」2種を製造してもらいました。三陸の水産物の水揚げ量が少ない中でも「いわし」の水揚げは安定しているため開発しました。味付けのベースに、醤油味は宮城県「ヤマカノ醸造」の濃い口しょうゆ、味噌味は仙台味噌を使用しています。



株式会社宝幸八戸工場のみなさん
左の写真は、株式会社宝幸の村上工場長

秋田県産米・秋田県産大豆（リュウホウ）使用 秋田の香ばし納豆せんべい

秋田で長年親しまれてきた「納豆せんべい」の原料を変更し、秋田らしさを出した古今東北商品を開発しました。

原料米を「秋田県産うるち米」、納豆の原料を「秋田県産大豆リュウホウ」に変更しました。秋田県産米の甘みと秋田県産大豆の香ばしさがマッチした、美味しい「おせんべい」になりました。



秋田いなふく米菓株式会社のみなさん



（株）東北協同事業開発
取締役 開発・営業部長
丹野 潤一

地域に貢献できるブランドをめざします

「古今東北」ブランドは、震災復興や地域経済の活性化という理念で開発された商品ブランドです。東北の生産者の方たちの理解を得て、多くの商品開発が行われました。さらに、多くの販路も生まれました。東北の原料を中心に開発することで、東北の地産地消にも貢献することができます。「古今東北」は、東北の原料を使用することで、東北の商品を全国にも紹介していくプラットフォームの役割を担っていきたいと考えています。

食品の安全・安心

いつの時代も変わらない「安全な商品を安心して利用したい」というメンバー（組合員）の願いを叶えるため、生協は設立以来、安全でより良いものを供給することを事業の重要な柱としています。

みやぎ生協・コープふくしま 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）が安心して食品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバー（組合員）の願いの実現をめざします。そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

① 取引先、生産者、メンバー（組合員）とコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバー（組合員）への供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。

- (1) 食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します
- (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
- (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。

② 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。

③ メンバー（組合員）と産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」の運動の輪を広めます。

④ 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。

⑤ 食に関する学習・体験の活動にメンバー（組合員）や他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。

食品の安全・安心に関する基本方針は、生協内外に公表します。

2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

商品の安全対策課

■食品の安全マネジメントシステム

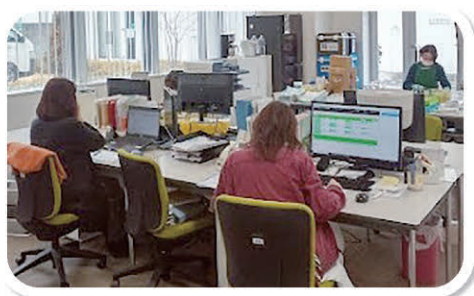
各部署で、「食品の安全・安心に関する基本方針」に基づく目標と課題を立て、進捗状況を確認しています。その取り組みの有効性は、内部監査や外部検査の結果も踏まえて評価し、目標に至らない場合には原因を明らかにして対策を補強することで改善を積み重ねています。

■お申し出対応教育

2008年「中国製手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを風化させないため、採用時と毎年2月度に、事件の内容と教訓、信頼されるお申し出対応について職員全員が学習・確認しています。

■重大商品事故管理システム

重大な事故につながりかねない兆候を見逃していないか、お申し出に対する判断や対応に誤りはないか、お申し出となった原因解明と再発防止策はしっかり行われているかなど、最後まで対応状況を監視しています。



● 商品検査センター

商品検査センターでは、店舗や宅配で扱っている商品（インスタ商品含む）について、微生物検査や放射性物質検査、残留農薬検査を行っています。



メンバー（組合員）のみなさまに安心して商品を利用していただくために、生協の宅配や店舗で取り扱う商品の安全性を科学的に検証しています。



● 2024年度 商品検査検体数一覧

微生物検査

	検体数
宅配商品	1,036
店舗加工商品	1,270
店舗一般商品	470
COOP商品 生産部商品	511
取り扱い前商品など	1,112
合 計	4,399

※検査結果は店舗やメーカーの衛生管理向上のために活用しました。



放射性物質検査

	検体数
「めぐみ野」品、コープ東北産直	60
アクアクララ水	6
大豆の会	6
一般市場品（野菜・果物）	4
一般市場品（魚介類）	10
合 計	86

※すべて基準値内であることを確認しました。



残留農薬検査

	検体数
「めぐみ野」野菜	169
「めぐみ野」米	15
一般商品	3
合 計	187

※検査結果は、産地の栽培計画や管理向上のために活用しました。

※めぐみ野品は栽培計画を作成し産直使用農薬を決めて栽培しています。

（産直使用農薬：「使用を判断する4つの基準」に基づき使用できる農薬を決めています）

※検査は日本生活協同組合連合会商品検査センターで行っています。





安心してくらせる 地域づくり



地域のインフラとして

● 地域の見守り活動

■ 高齢者の見守り

宮城・福島県内の自治体と「高齢者見守りの取り組みに関する協定」を締結しています。宅配、ふれあい便、夕食宅配では、配達時にいつもと違う状況に気付いた場合に行政窓口へ連絡し、安否を確認しています。

2024年度メンバー（組合員）
異変発見件数

宅配	63
夕食宅配	33
ふれあい便	10
計	106

● 自治体等との連携

■ 包括連携協定

宮城県内の自治体と包括連携協定を締結しています。「誰もが安心してくらせる地域づくり」に向け、これからも幅広い分野で連携していきます。

協定締結自治体一覧

宮城県11市町（2025年4月末時点）

●東松島市 ●石巻市 ●七ヶ宿町 ●塩竈市 ●大崎市
●富谷市 ●仙台市 ●白石市 ●利府町 ●栗原市 ●名取市

■ 災害時における応急生活物資の供給協定

宮城県・福島県で合わせて33自治体、3団体と「災害時における応急生活物資の供給協定」を締結しています。また、2つの広域消防組合と「緊急消防援助隊派遣時における食料物資の供給協力協定」を締結し、近年頻発している大規模自然災害時に備えています。

田村市とみやぎ生活協同組合との
災害時における応急生活物資の協力に関する協定締結式



災害時物資協定 締結自治体・団体一覧（2025年4月末時点）

- 宮城県26自治体
●仙台市 ●塩竈市 ●多賀城市 ●松島町 ●七ヶ浜町 ●利府町 ●大和町 ●大郷町 ●富谷市 ●大衡村 ●名取市 ●岩沼市 ●亘理町
●山元町 ●登米市 ●石巻市 ●大崎市 ●東松島市 ●白石市 ●加美町 ●南三陸町 ●気仙沼市 ●大河原町 ●七ヶ宿町 ●栗原市 ●涌谷町
- 福島県7自治体
●福島市 ●玉川村 ●浅川町 ●桑折町 ●棚倉町 ●伊達市 ●田村市
- 宮城県2団体、福島県1団体
■宮城県 ●日本赤十字社宮城県本部 ●株式会社フクダ・アンド・パートナーズ
■福島県 ●社会法人福島県老人施設協議会

緊急消防援助隊派遣時における食料物資の供給協力協定

●仙台市消防局 ●石巻地区広域行政事務組合

■首長・議員懇談会

宮城県・福島県の首長や宮城県議・仙台市議と、メンバー（組合員）との懇談会を年に1回行っています。「誰もが安心してくらせる地域づくり」というテーマで、生協と行政それぞれの取り組みについて情報交換し、メンバー（組合員）からは地域住民としての率直な意見を直接行政に伝える貴重な機会になっています。



仙台市長懇談会



福島市長懇談会



地域のセーフティネットとして

●くらしと家計の相談室(生活相談・家計再生支援貸付事業)



家計見直しのアドバイスや、金融機関からの借り入れができない場合の生活資金のご相談など、お金に関する様々なご相談をお受けしています。相談内容に応じて、公的支援や法的制度をご案内し、生協独自の貸付支援も検討します。また、宮城県および仙台市の委託を受け、「生活困窮者自立支援制度家計改善支援事業」の窓口として地域社会に貢献しています。



●コープフードバンク



お取引先様などから余剰食品の無償提供を受け、社会福祉団体などに無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心してくらせる地域づくりをめざしています。

提供先団体・施設数



●フードドライブ

みやぎ生協のフードドライブは、支援を必要とする施設や団体とつながり、ニーズに合った食品をメンバーに呼びかけています。

2024年度は53店舗（60エリア）と八乙女本部で実施し、計11,959食をのべ80団体へ寄贈しました。





社会福祉の向上

● 社会福祉法人 こーぷ福祉会



介護・福祉事業を担うこーぷ福祉会は、在宅高齢者向けの介護拠点を宮城県仙台市内の3か所に設置しているほか、サービス付き高齢者向け住宅「こ〜ぶなごみの杜桜ヶ丘」を開設し、高齢者の自立した生活を支援しています。



■ みやぎ生協桜ヶ丘店に地域包括支援センター

仙台市の委託を受け、こーぷ福祉会が運営している桜ヶ丘地域包括支援センターは、みやぎ生協桜ヶ丘店の一角にあります。お店の中にあることで、買い物ついでに気軽に寄ることができます。

● 暮らしの助け合いの会



「住みなれた地域で安心して暮らしたい」「少しの手助けがあれば自立した生活が出来るのに」という思いを抱える会員どうしの助け合い、支え合いの活動です。高齢の方、障がいのある方、子育て中の方などのために、暮らしの困りごとを、活動できる会員が有償でお手伝いしています。

活動内容例

- 室内の掃除
- 通院など外出の付き添い
- 食事作り
- 産前産後の支援
- 話し相手
- 草取りなど
- 買い物



● 民間団体への支援

■ みやぎ生協福祉活動助成金



地域福祉の向上をめざし、福祉活動に関わる地域活動や研究活動を支援する事業に、毎年2回、総額1,000万円を上限に助成金を贈呈しています。贈呈式には助成団体が集まるため、分野を超えた団体の交流の場にもなっています。



コープふくしま贈呈式



みやぎ生協贈呈式

2024年度上期・下期みやぎ生協福祉活動助成金 採択団体一覧

上期 助成団体 (30 団体)

- | | | | |
|----------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|
| ● 野外自主保育サークル おむすびこりん | ● バストラル・ハーブ ミニストリー | ● みんなの食堂 おむすびこりん | ● あたごふれあい食堂 |
| ● 一般社団法人 しおかぜホーム | ● 特定非営利活動法人 | ● ライクミー(ダブルケアラー支援団体) | ● 特定非営利活動法人 フローレンス |
| ● 一般社団法人 東北駆け込み寺 | ● みやぎ県子ども・おやこ劇場 | ● こども食堂ばば | ● 特定非営利活動法人 |
| ● シンフォニー花立事務局 | ● やおとめこども食堂の会 | ● こども食堂あいさん家 | ● 放課後こどもクラブBremen |
| ● こども食堂世話人会 | ● 荒町地区社会福祉協議会(すまいる食堂) | ● みやぎ人形劇の会 | ● 親子の居場所Clover |
| ● 広瀬みんなの食堂 | ● 社会福祉法人 つどいの家 | ● 南中山中学校区 | ● 特定非営利活動法人 |
| ● たいわ おひさま食堂 | ● 教育の未来を支えるネットワーク | ● 住民活動サポートチーム「Mサポ」 | ● 全国要約筆記問題研究会宮城県支部 |
| ● ハピふるネット | ● ふれあい健康サロン富沢 | ● よーし・えんぐみcafé-sendaï | |
| ● 一般社団法人りとりと | ● 宮城県心臓病の子どもを守る会 | ● 子育てサロンはぐま | |

下期 助成団体 (22 団体)

- | | | | |
|-------------------------|----------------------|--------------------|--------------|
| ● ハッピースマイル | ● ふれあい健康サロン富沢 | ● 森の寺子屋 | ● からり |
| ● 八木山まちづくりプロジェクト | ● 一般社団法人 スタンドアップ互理 | ● 一般社団法人 SC.FIELD | ● 特定非営利活動法人 |
| ● 自然探検くらぶ いっか | ● 全国ギャンブル依存症家族の会 宮城 | ● みやぎ人形劇の会 | ● 高橋園 みっちゃんち |
| ● 特定非営利活動法人 | ● みやぎ助産師有志 たまごひよこ応援隊 | ● ひだまり食堂実行委員会 | |
| ● 障がい者の暮らしとお金の相談室 | ● 東北自死・自殺相談センター | ● Tobilala (とびらら) | |
| ● 一般社団法人 ひざいん八木山 | ● NPO 法人キンダーフォーラム | ● 一般社団法人 もりの工房 | |
| ● 虹色実行委員会 | ● にじいろ CANVAS | ● 一般社団法人 | |
| (こども食堂名: 校内カフェ Rainbow) | | ● ミュージックプロデュースMHKS | |

2024年度コープふくしま福祉活動助成金 採択団体一覧

助成団体 (22 団体)

- | | | | |
|--------------------|--------------------|------------------------|------------------|
| ● 特定非営利活動法人 シャローム | ● はまどおり大学 | ● 地域コミュニティ場所づくり | ● アグリ・ウォッチャー・クラブ |
| ● あしかの水遊び | ● 地域食堂さくらんぼ | ● 集づくり子どもカフェたまご | ● 城山ふれあい広場 |
| ● 子ども食堂ほっと | ● 内郷まちづくり市民会議 | ● 一般社団法人あんだんて | |
| ● 子ども食堂アンブレラ | ● NPO だて文庫サービスセンター | ● 特定非営利活動法人ささえ愛カフェ | |
| ● 郡山障がい児サポートセンター | ● 郡山医療生協 ひなたぼっこ | ● ぼんじりの会 | |
| ● funcafé NET | ● いわき三和町 つむぎの会 | ● 一般社団法人 SJW うちどうこども食堂 | |
| ● かしまコミュニティ食堂実行委員会 | ● いわき子ども食堂ネットワーク | ● 石崎ハッスルズ | |

■ COOPTリップカード みやぎスマイル基金



みやぎ生協と(株)日専連ライフサービス様が社会貢献を目的に協力して始めた「みやぎスマイル基金」。COOPTリップカードでの決済1回につき1円を300万円まで積み立て、年に1度、学校や学生が取り組む地域貢献活動へ助成しています。



コープトリプルカード

みやぎ生協、日専連加盟店、JCB加盟店で利用できるクレジットカードです。



2024年度 助成団体 (11 団体)

- | | |
|---------------------------|---------------------------------------|
| ● 学校法人北杜学園 | ● 東北大学たなぼた |
| ● 仙台医療福祉専門学校 社会福祉学科 | ● 尚絅学院大学 学校教育学科 |
| ● 宮城県加美農業高等学校学科 草花専攻班 | ● 笑顔でつなぐSDGs七夕飾りプロジェクト実行委員会 |
| ● 宮城学院中学校高等学校 自然科学班(MGSC) | ● 仙台こども専門学校こどもんくらぶ |
| ● 宮城県工業高等学校 電気科3年 | ● 東北福祉大学学生サークル |
| ● 宮城県柴田農林高等学校川崎校 | ● Positive Action students Supporters |
| ● 宮城県農業高等学校 生活科 | ● 東北大学インクストーンズ |



「誰も取り残さない」買い物のかたち

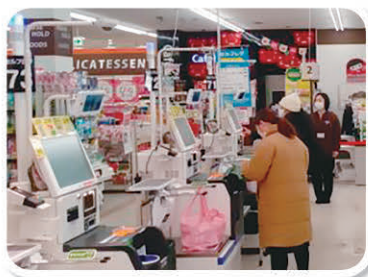
● 店舗事業



買い物に困難を抱える方をサポートできるサービス・ケア・アテンダント資格者の育成や、バリアレスな店舗内装など、地域の皆さんが買い物をしやすいお店づくりをめざしています。



▲お会計時のストレス緩和のために「あせらず・ゆっくり・安心してお会計」いただける「ゆっくりレジ」を木町店・錦町店を除く全店に導入しました。



▲ご要望が多いセルフレジは3月現在30店舗まで拡大し、25年度さらに増やす計画です。



▲お客様に安心して買い物をしていただけるよう、日本盲導犬協会スマイルワン仙台様のご協力のもと、視覚障がい者の方や盲導犬をお連れのお客様への対応方法を学んでいます。

■ 地域密着型コンビニFamily Mart + COOP

みやぎ生協の子会社が運営する「Family Mart + COOP」は、地域の暮らしに役立つ店舗として、宮城県七ヶ宿町、仙台市鶴ヶ谷に2店舗営業しています。お買い物だけではなく、地域のコミュニティの場として、「昔ながらの商店」のような地域密着型のお店づくりをめざしています。



● 宅配、夕食宅配事業



地域の高齢化が進む中、宅配事業に求められる社会貢献としての役割も大きくなってきています。個人宅配時の在宅状況を離れて暮らす親族へメールでお知らせする「個配メールサービス」をはじめ、子育て支援の「ママ割」や「シニア割」「障がい者サポート値引」「介護サポート値引」サービスのご利用案内、平日毎日お届けの夕食宅配サービスでの見守り活動など、安心してご利用いただける取り組みをすすめています。



● 移動店舗せいきょう便



現在、宮城県10店舗、福島県1店舗を拠点に運行しているせいきょう便。年々深刻になる買い物困難地域のニーズに対応しながら、運行台数とエリアを拡大し続けています。

運行エリア



稼働台数

宮城県内 16台
福島県内 1台

(2025年4月時点)



● 買い物代行サービスこ～ぷふれあい便



会員登録をしていただいた方を対象に、週2回、お店の商品を自宅まで届ける買い物代行サービスです。現在は宮城県内17店舗で取り組み、地域の見守り活動としても役立っています。



利用の流れ

ご注文内容の確認

店で商品を選ぶ

レジで会計

セット

積み込み

お届け・次回分注文聞き取り



公正で人にやさしい 組織づくり



働きやすさとダイバーシティ

様々な雇用形態、ライフステージの人々が働き続けられる組織をめざし、多様な人材が活躍できる仕組みづくり、コミュニケーションの活発化に努めています。

● サークル活動支援制度

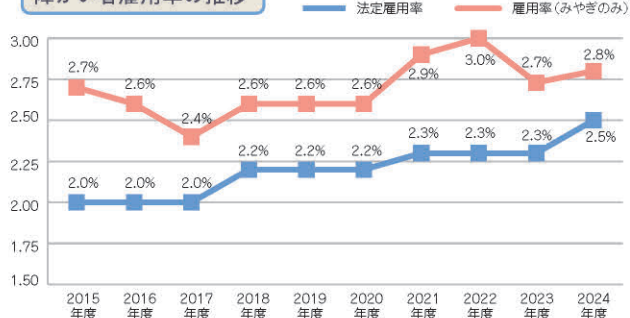
スポーツや趣味を通じて、部署・事業所の枠を超えたコミュニケーションを促すための支援制度。活動内容や活動計画などを申請してサークルとして認められれば、活動費用の一部を生協が支援しています。現在は29のサークルが登録されています。



● 障がい者雇用

現在、みやぎ生協・コープふくしま合わせて126人の障がい者が店舗を中心とした事業所で働いています。それぞれの特性や能力を活かせるよう、周囲の職員や総務部が力を合わせ、何かしらの制約がある人も働ける環境を作っています。受け入れる職員の理解と配慮の工夫も広がり、みやぎ生協への就労希望者は増えてきています。

障がい者雇用率の推移



● 育児・出産・介護休業

職員が出産後や、育児・介護の最中でも働き続けられるよう、法定基準以上の制度を整備し、ポスター等で周知しています。また、総務部職員が個別の相談に応じています。

■ 出産・育児支援制度

制度名	内 容	2024年度利用人数
配偶者出産休暇	通算2日以内で取得可能。	11人
妊娠時短	1日1時間取得可能。	19人
育児休業	①子どもが満3歳になるまで取得可能。 ②産後パパ育休（子の出生後8週間以内に4週間まで、2回分割して取得可能）	① 68人 ② 12人
育児時短	子どもが小学校3年生の修了まで取得可能（短時間勤務）。	28人
子の看護休暇	小学校就学前までの子ども1人の場合は年間5日、 2人以上の場合は年間10日、1日単位で取得可能。	18人

■ 介護支援制度

制度名	内 容	2024年度利用人数
介護休業	対象家族1人につき1年取得可能（アルバイトは法定の通算93日間）。	23人
介護時短	短時間勤務	4人
介護休暇	対象家族が1人の場合は年間5日間、2人以上の場合は年間10日間、 1日単位で取得可能。	22人

● リハビリ勤務制度

メンタル不調で休職した職員がスムーズに復職できるように、産業医、健康管理室、総務部が協力して支援する制度があり、復職後の就労支援を行います。

また、がんや難病と仕事を両立するために、該当部署、健康管理室、総務部が協力して支援しています。

誇りと展望が持てる組織づくり

● しごと報告カード

「しごと報告カード」は、仕事の中で発見したこと、改善のために実行したことなどを記入して提出するものです。優れた「しごと報告カード」を半期に一度表彰します。

また、「しごと報告カード」で業務改善につながる提案も集め、さらなる生産性向上や、働きやすい職場環境づくりをめざしています。



地球とエネルギーの 未来のために



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさ
を増やす



15 陸の豊かさ
を増やす

2022年9月に策定したみやぎ生協の環境・サステナビリティ政策とアクションプラン「7つの行動指針」に沿って、2024年3月より環境方針の重点課題を4項目から7項目へ改定しました。

環境理念

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協・コープふくしまは、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバー（組合員）に供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

1. 「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の7項目をメンバー（組合員）とともに取り組みます。

- 1) エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。
- 2) 生協事業のサプライチェーン全体と、メンバー（組合員）の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます。
- 3) 再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再エネ導入量を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します。
- 4) 生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙を削減します。また、持続可能な原材料への切り替えを進めます。
- 5) 生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、メンバー（組合員）とともに推進します。
- 6) 生協事業ならびにメンバー（組合員）家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。
- 7) メンバー（組合員）とともに環境保全活動を推進し、自然共生社会の実現を目指します。

2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協・コープふくしまが受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守します。

3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

この環境方針は、生協内外に公表します

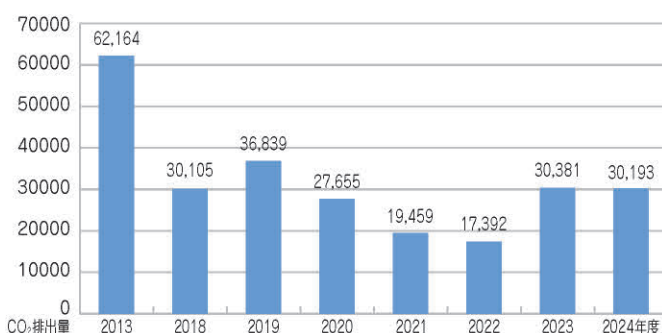
2030年目標 「CO₂排出量2013年度比80%削減」

2030年目標として「CO₂排出量 2013年度比80%削減」を掲げました。具体的には、地球温暖化係数（※₁）のきわめて低い自然冷媒（CO₂冷媒）を使った冷凍・冷蔵設備の導入、電気自動車の導入、SVO（※₂）コージェネレーション発電機の導入、再エネ電力比率の高い電力への切り替え、などに取り組んでいます。

（※₁）大気中に放出されたときに、一定時間内に地球に与える温暖化への影響の比率。

（※₂）使用済み食用油を原料にした軽油の代替燃料。Straight vegetable oil の略。

CO₂排出量（t）



循環型社会の構築～ 3R ～

●メンバー(組合員)からの資源回収



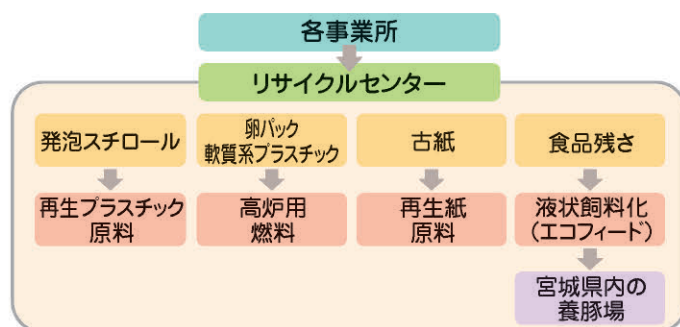
店舗にリサイクルボックスを設置し、古紙や牛乳パック、プラスチック容器などを回収しているほか、自治体の事業に協力し、小型家電や使用済み食用油の回収ボックスを設置している店舗もあります。また、23年度から一部の店舗へペットボトル回収機を導入しています。ペットボトル回収機は、投入本数に応じてクーポンポイントが付与され、お子様にも大人気で回収本数も増えています。それに加えペットボトルを1/3に減容することで輸送時のCO₂も削減しています。

●みやぎ生協リサイクルセンター

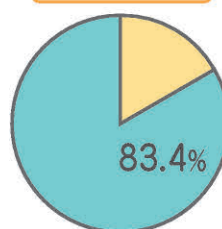


みやぎ生協では、事業所からも廃棄物を集め、自ら分別、収集、再資源化しています。紙類やプラスチック類のほか、店舗の農産・惣菜部門で発生した食品残さも集めており、エコフィード化(※)して県内の養豚場に出荷しています。これにより、高い食品リサイクル率を維持しています。

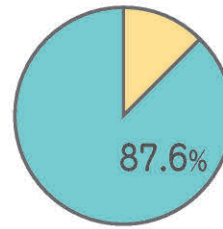
(※) 乳酸発酵による液状飼料化



事業系廃棄物の
リサイクル率

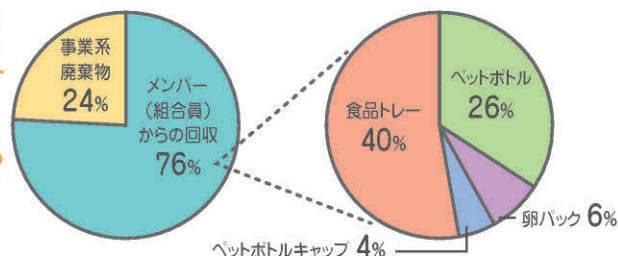


食品リサイクル率



■プラスチック資源 100%リサイクル

回収した
プラスチック系
廃棄物
内訳(重量)



レジ袋の有料化に取り組むほか、メンバー(組合員)や事業所から集められたプラスチックごみのリサイクルに取り組んでいます。回収したプラスチックごみは、再生プラスチック素材や高炉用燃料として、ほぼ100%再利用されています。

●環境にやさしい商品の普及

「顔とくらしの見える産直めぐみ野」商品、地産地消商品、環境配慮商品の普及拡大に取り組んでいます。このことで、低炭素社会、循環型社会、自然との共生(生物多様性)をめざしています。

■主な環境配慮商品



エコマーク

生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品



FSC (森林管理協議会)

責任ある森林管理をしている林業者を支援し、世界の森林保全貢献につながる木材製品



MSC (海洋管理協議会)

海の資源を枯渇させないよう、漁獲量や漁法量の時期、生態系などに配慮した漁業で取られた水産製品



レインフォレスト・ アライアンス認証

環境保護・労働者や家族の生活向上など、持続可能な農業のための包括的な基準を満たした農園に与えられる認証



再生可能エネルギーの普及拡大

● 自治体や企業との共同事業「地域連携・低炭素水素技術実証事業」

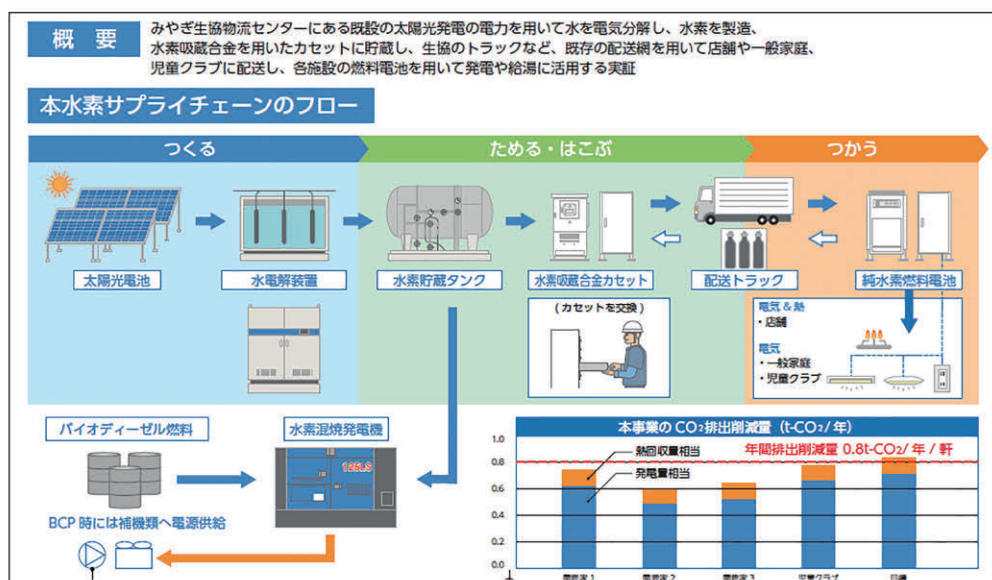


.....

環境省が進める「地域連携・低炭素水素技術実証事業」に、昨年度に引き続き2024年度も計画通りの実証に取り組み完了しました。このような取り組みを契機に今後の水素エネルギーの利活用先として、電気エネルギー（燃料電池）のほかに車両燃料（化石燃料の代替）としての検討も考慮します。

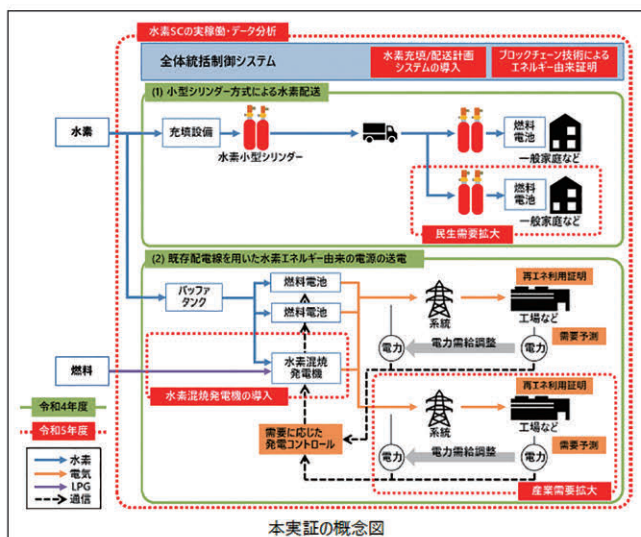
■ 安全性を含む技術認証

- 2017年度～2021年度の5か年実証事業（環境省）
 - ・宮城県富谷市内：富谷市日吉台児童館、一般家庭3軒、みやぎ生協明石台店、物流センター
 - ・事業参画者：株式会社日立製作所（代表事業者）、富谷市、丸紅株式会社、みやぎ生協
- 2022年度～2024年度の3か年実証事業（環境省・富谷市）
 - ・宮城県富谷市内：富谷市日吉台児童館、みやぎ生協物流センター
 - ・事業参画者：みやぎ生協（代表事業者）、株式会社日立製作所



■ 水素サプライチェーンの社会実装

- 2021年：「浪江町の復興まちづくり及び水素利活用を含めた脱炭素化に向けた連携協力に関する協定」を浪江町、日立、丸紅、パナソニック、みやぎ生協で締結
- 2022年～2024年：環境省の社会実装事業「エネルギー構造高度化・転換理解促進事業 / 水素民生・産業利用サプライチェーン構築及び需給調整実装事業」に参画
- 福島県浪江町及び南相馬市内、町所有施設に水素充填施設、町内の事業所などで実施
- 事業参画者：浪江町、南相馬市、株式会社日立製作所（代表事業者）、パナソニック株式会社、JFE コンテナ、国際航業、みやぎ生協
- 本事業は、2024年で計画通り水素の利活用等について実証・検証し、完了しました。今後も復興メニューの一つとして検討する機会があれば努めます。



● 再生可能エネルギー事業への投資



太陽光発電設備、廃食油を燃料としたSVO (Straight vegetable oil) コージェネレーション発電機を店舗、宅配センター、本部へ設置しています。また、みやぎ生協、ISEP、福島環境研究開発がコープいわき太陽光発電合同会社に共同出資する形で、みやぎ生協、ひっぽ電力、ISEPがコープ丸森太陽光発電合同会社に共同出資する形で太陽光発電事業を行い、東北各地での再生可能エネルギー事業の拡大に努めています。



羽川風力発電



コープいわき太陽光発電 (2025年度稼働予定)



コープ丸森太陽光発電 (2025年1月29日稼働)

■ 白石店

2024年11月25日稼働(宮城県補助金活用)
店舗3階屋上に太陽光パネル572枚、発電能力200kwを設置し店舗電気使用量の約15%を自家消費する見込みです。



■ 太陽光発電自己託送

宮城県川崎町に太陽光発電所を設け、発電した電力を送配電事業者の送配電ネットワークを利用し、みやぎ生協の店舗へ電気を供給する事業を開始します。発電能力は1,125kwで供給は7店舗を予定し、各店の自家消費比率は約20%を見込みます。



ソーラーシェアリング発電所への投資

■ 福島市岡島ソーラーシェアリング

福島県福島市岡島地区でブドウを栽培している長谷川農園さんの農地にソーラーパネルを設置し、売電収入の一部を信達青果生産出荷組合連合会に寄付しています。



■ 二本松営農ソーラー

(株)ゴチカン、ISEPと協力し、福島県二本松市の耕作放棄地をブドウやエゴマなどの農地に変え、その上に約6万㎡のソーラーパネルを設置しています。



● みらいにやさしい COCOENE(ココエネ)



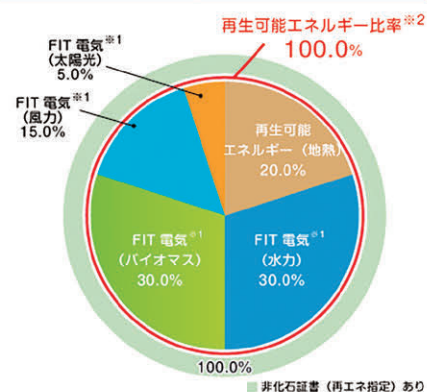
太陽光、風力、水力、バイオマスの自然エネルギーにより発電されたFIT電気・再生可能エネルギーの比率が100%(2024年度計画値)の「ソフトでんき」の販売を実施しています。

東北地方にある自然のエネルギーで発電された「地産地消」の再生可能エネルギーの利用を広げることで、再生可能エネルギー発電の拡大とエネルギー自給率向上などに寄与します。

(※1) FIT電気を含まず。

(※2) この電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客様も含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、当社が販売するFIT電気は、CO2排出量について、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO2排出量をもった電気として扱われます。

2024年度計画値



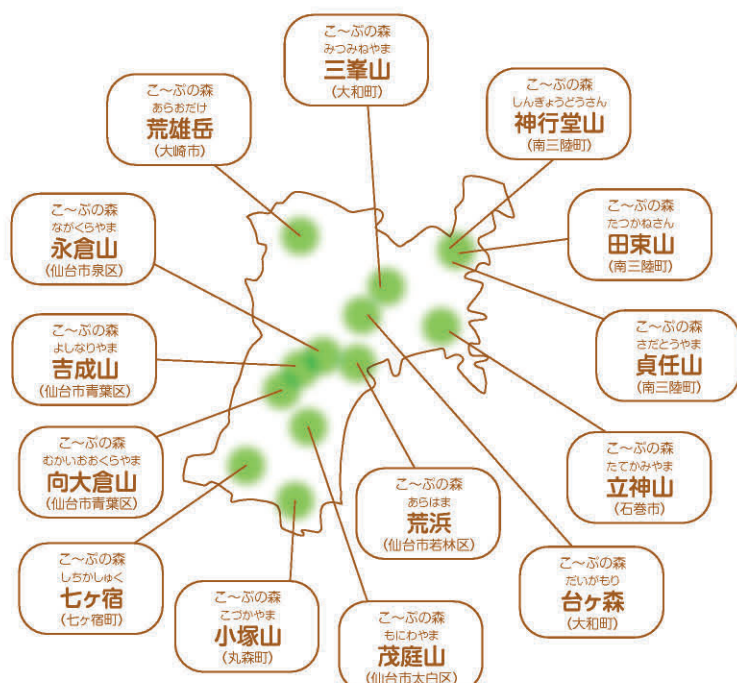


メンバー(組合員)と進める環境活動

こ〜ぶの森



宮城県内の緑と自然を豊かにするために始まった「こ〜ぶの森」の活動。アルミ缶や廃食油回収の売却益や「COOP緑の基金」に寄せられた募金を活用し、植林や下草刈などに取り組んでいます。また、メンバー(組合員)が参加できる活動として、体験会などが開かれます。



こ〜ぶの森は宮城県内14ヶ所に広がっています。



こ〜ぶの森協賛企業様からの募金贈呈式



秋の森観察会



平和な社会の 実現をめざして



平和な国際社会に向けて

生協は、商品を通じた国際貢献や開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの活動を支援しています。また、原爆や戦争の悲惨さに目を向け、平和の大切さについて考える活動も続けています。

● メンバー(組合員)による国際貢献

■ コープ商品を通じた貢献

CO・OP コアノンスマイルスクールプロジェクト

「CO・OP コアノンシリーズ」いずれか1パックお買い上げいただくごとに1円がアンゴラ共和国に寄付され、楽しく学べる環境づくりに使われます。



CO・OP×レッドカップキャンペーン

キャンペーン期間内に対象のコープ商品を1点お買い上げいただくごとに1円が国連WFP(世界食糧計画)に寄付されます。寄付金は、毎年指定された開発途上国の「学校給食プログラム」に役立てられます。



■ ユニセフ 募金活動

店舗での募金箱やレジ募金、宅配注文書からの募金などを通じて、メンバー(組合員)とともにユニセフを支援しています。

2024年度 ユニセフ募金額

	みやぎ	ふくしま	合 計
一 般 募 金	4,456,442円	2,534,598円	6,991,040円
リサイクル(紙パック回収)募金	2,955,997円	130,068円	3,086,065円
リサイクル(ペットボトルキャップ回収)募金	166,064円	0円	166,064円
合 計	7,578,503円	2,664,666円	10,243,169円

(すべてみやぎ+ふくしま合計金額)

● 平和を守る活動

■ ピースアクションin オキナワ・ヒロシマの取り組み

平和募金を活用して学生や親子を現地に派遣し、報告会を実施しています。「沖縄戦跡・基地めぐり」では学習講演会や戦争体験を聞きました。沖縄の派遣報告会では、参加者が沖縄で体感して考えたことを発表して交流しました。「沖縄の現実を知ることができた」、「次の世代により良い世界を手渡したい」、「学んだことを伝えていきたい」などの感想が寄せられました。広島での派遣報告会では、派遣された小中学生が平和学習で学んだことや体験を発表し、被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有することができました。



ヒロシマ派遣報告会の様子

■ 「被爆の証言を聞く」学習会

木村緋紗子さん(宮城県原爆被害者の会会長・核兵器廃絶ネットワークみやぎ代表)を講師に迎え、被爆の実相と核兵器廃絶、平和の大切さについて学びました。体験談を通して平和について深く考える機会となりました。



木村緋紗子さんの「被爆の証言を聞く」

■ へいわの輪プロジェクト

絵本キャラバンでは、「しあわせ」や「へいわ」に関する絵本126冊とコメントを展示し、多くの人と平和の思いを共有しています。2024年度は28会場で開催されました。また「しあわせ」や「へいわ」を感じる絵とコメントを募集し、平和について考えるきっかけ作りとしています。2024年度は178枚の絵が集まりました。



へいわの絵の表彰式

絵本でつながろう「へいわの輪」プロジェクトサイト▶





ガバナンスと 概況



経営体制と意思決定

● 最高議決機関 総代会



メンバー（組合員）の中から選ばれた「総代」による「総代会」で、毎年の方針・事業計画などが決定されます。総代は、事業地域を基にした地域区と学校部職域区（宮城県のみ）の選挙区から選挙で選ばれます。

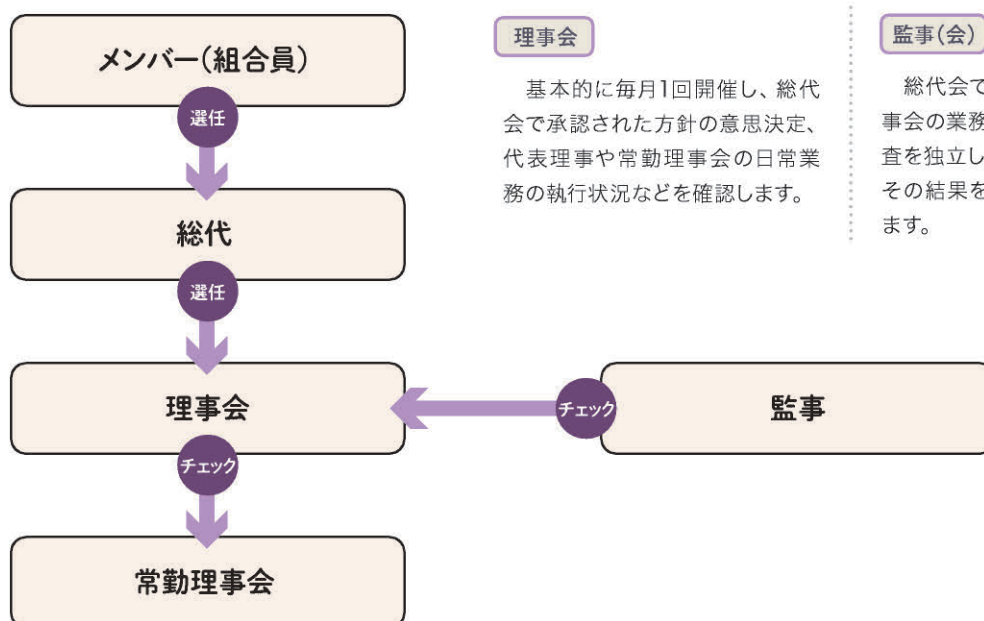
第44回（2025年）総代会 選挙区別 総代定数

	選挙区数	メンバー（組合員）数	総代定数
宮城県地域区	58	703,284人	843人
宮城県学校部職域区	8	8,141人	11人
福島県地域区	12	190,920人	230人
合 計	78	902,345人※	1,084人

※選出基準組合員数は、2024年12月20日現在の組合員数から住所不明及び未登録組合員数を除いた数です。

● 業務執行体制

日常的には各役員・本部長・部長が責任を持って、総代会の決定に基づき業務を執行します。また、監事は理事の職務の執行と会計監査などを行っています。



理事会

基本的に毎月1回開催し、総代会で承認された方針の意思決定、代表理事や常勤理事会の日常業務の執行状況などを確認します。

監事(会)

総代会で選出された監事が理事会の業務執行状況や会計の監査を独立した機関として実施し、その結果を毎年総代会に報告します。

2019年 3生協が組織合同 (みやぎ生協・コープふくしま・福島県南生協)

● 組織合同の概要

2019年度より、みやぎ生協、コープふくしま、福島県南生協の3生協が組織合同しました。

組織合同による目的は次の4つです。

- ① 事業革新とコスト構造改革
- ② スケールを生かした事業効率化
- ③ 福島県内での事業・組織率拡大
- ④ 人材の確保

「地域のメンバー（組合員）のくらしの向上に貢献し続ける」という使命実現のため、組織合同という形で連携を強めました。



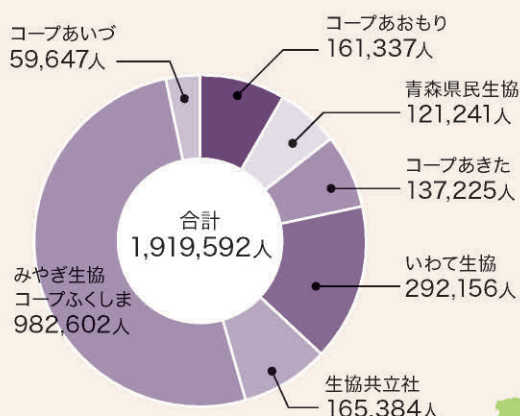
生活協同組合連合会 コープ東北サンネット事業連合

1995年にいわて生協、生協共立社、みやぎ生協が設立した事業連合で、商品仕入れを共同で行うことにより、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在は、東北6県7生協が加盟し、店舗事業、宅配事業、食品の安全安心、物流、システムなどの分野で統一・共同が進んでいます。（通称：コープ東北）

■ コープ東北のデータ

- 代表
代表理事 理事長 倉田秀昭
- 本部所在地
宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2
- 設立
1995年5月12日
- 会員数
東北6県7生協
- 供給高（会員生協への供給）
1,412億94百万円

● 会員生協の組合員数（2025年3月20日時点）



● 内部統制

ステークホルダーとの協同・連帯を大切にしながら、業務の効率性、提供する商品やサービスの質の向上に努めています。

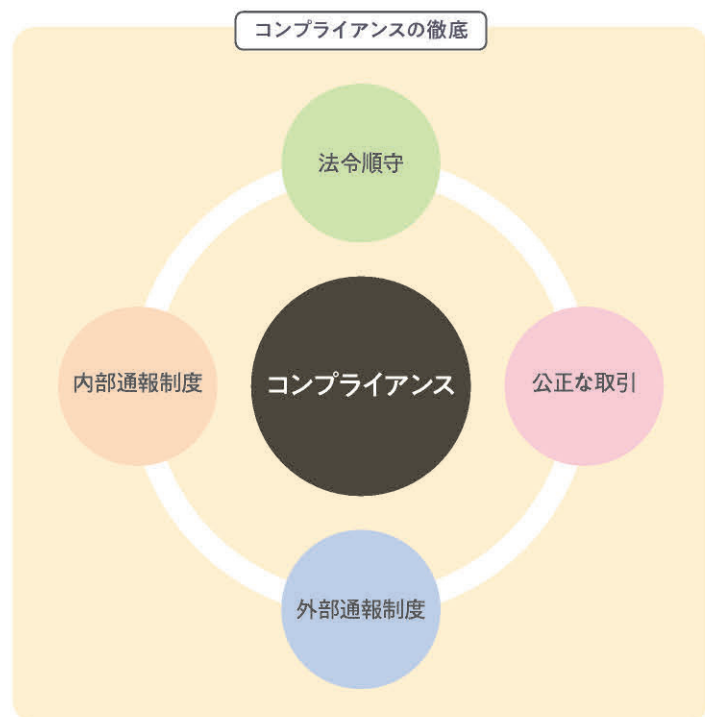
■ 内部統制システム整備 基本方針

内部統制システム整備に関わる基本方針を定め、7つの体制の整備をすすめています。これにより、内部統制の4つの目的である、「事業活動に関わるコンプライアンスの徹底」「職務の有効性と効率性」「財務報告の信頼性の確保」「資産の保全」の達成をめざして取り組んでいます。

7つの内部統制体制

- 1 コンプライアンス体制
- 2 情報管理体制
- 3 リスク管理体制
- 4 効率性確保体制
- 5 子会社などの管理体制
- 6 監事監査確保体制
- 7 監事への報告体制

コンプライアンス…
生協の健全かつ適正な業務運営

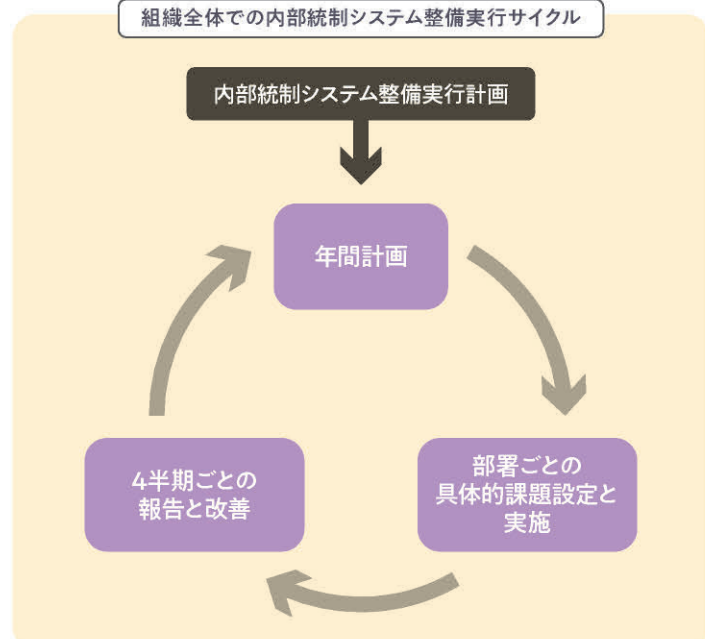


日常的な実行計画

上記基本方針にもとづき、毎年「内部統制システム整備実行計画」を策定しています。年間の共通重点課題を設定するとともに、各部に内在するリスクを評価し、年間を通して継続してリスク管理に取り組んでおり、四半期に一度、課題の進捗状況を確認しています。

また日常的に各部でモニタリングを行い、リスク管理が適切に実行されているか検証するとともに、独立した立場から内部監査担当による内部監査を実施しています。

組織全体での内部統制システム整備実行サイクル



● みやぎ生協・コープふくしまの概況

(数字は2025年3月20日時点)

名 称 みやぎ生活協同組合 **設 立** 1982年3月21日

本部所在地 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

メンバー(組合員)数 982,602人

組合員との取引価額総額

総額	145,781
● うち店舗事業	92,288
● うち宅配事業	47,018
● うちサービス事業	1,875
● うちエネルギー事業	4,368

(単位 百万円)

店舗・宅配事業所数

	みやぎ	ふくしま
店舗	49	12
● うち直営SM型	47	12
● うちA&COOP (農協と共同運営)	2	0
コンビニ	2	0
宅配センター	11	6

職員数

(出向者等を含む)

レギュラー職員	1,252
エリア職員	271
嘱託職員	529
パートナー職員	4,094
アルバイト職員	1,974
計	8,120

経営概況

ホームページに
掲載しています。



子会社・関係団体一覧

法人名	主な事業内容
(株)宮城県学校用品協会	学校用品販売・アフタースクール事業・宅配水・コインランドリー
(株)コープエステート	不動産賃貸
(株)スクラムファイブ	ベーカリー
(株)コープストア	A & COOPの経営
(株)コープコンビニエンス	FamilyMart + COOPの経営
社会福祉法人 こーぷ福祉会	高齢者福祉・介護事業



このパンフレットは水なし印刷で印刷し、
カーボンオフセットしています。

CO₂排出量は、1部あたり530g
でJWPAとCFCを通じてカーボン
オフセットしました。



発行日 2025年5月15日

発行 みやぎ生活協同組合

〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女 4-2-2

お問合せ先

● 機関運営部

TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821

● 環境活動に関する詳細は環境・サステナビリティ推進部

TEL.022-771-2461

HPアドレス

みやぎ生活協同組合 <https://www.miyagi.coop/>

本報告書はホームページにて掲載、

ダウンロードできます。

